

吹奏楽部・野球部 共同応援を録音

▶吹奏楽部と野球部の共同応援の様子



▲野球部は試合での応援同様に大きな声で応援をした。

チアリーダー 結成に向け



速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

7月29日に本校多目的ホールにて吹奏楽部と野球部による共同応援の録音が行われた。録音された応援は滋賀学園高校チアリーディング部の村井三幸コーチに送られ、甲子園出場を決めた本校野球部を応援するために本校生徒から結成されるチアリーダーの応援の振り付けを考えていただく。

吹奏楽部部長の明石珠美さん（2―8）は部の雰囲気として、「野球部と応援を合わせてみて、いよいよ甲子園に行くという実感が湧いた。吹奏楽部には甲子園で応援することが夢だった人も多いので、みんなやる気を持って取り組んでいる」と笑顔を見せた。また「応援歌は普段の曲と違ってずっと音を出し続けなければならぬというえ、すぐ次の曲を吹かなければならない。吹きっぱなしで大変だが、野球部の皆さんに力を出してもらえるように音が途切れないようにしたい」と意気込んだ。最後に野球部に向けて「甲子園という大きな試合の応援に連れていっていただきありがとうございます。吹奏楽部一同精一杯応援に力を尽くします」とエールを送った。

吹奏楽部顧問の松島正宜先生は「野球部と応援を合わせるのには慣れているが、甲子園となるとチアリーダーや一般客などいろいろな人の絡みがあるので、いかに応援を合わせいくかが課題だ。野球部のおかげで良い経験を積めるので感謝したい」と野球部に感謝を表された。

応援団長の辻和彦君（3―6）は吹奏楽部と応援を合わせてみて「声を出すタイミングが難しかった。全員が把握できておらず曖昧な部分があるのでしっかりと仕上げていきたい」と課題を話した。また応援について「甲子園では約5000人が声を合わせるようになるので、声を出すタイミングを合わせるのには難しいと思う。野球部が積極的に動き、来てくれた人全員が応援をしっかりと合わせられるようにしたい」と目標を掲げた。最後に辻君は「4年前のようにアルプススタンドを赤一色にしたい。甲子園のグラウンドは一人ひとりの声がよく響くので、5000人の声が一つになるとどれくらい響くのか楽しみ。大きな声を出して応援を響かせられるように頑張りたい」と意気込んだ。